

NEW

透析中の下肢加温を目的とした新しい温流水の運用について

FOOT CARE



医療法人 なごみ会 岸辺くすのき透析クリニック

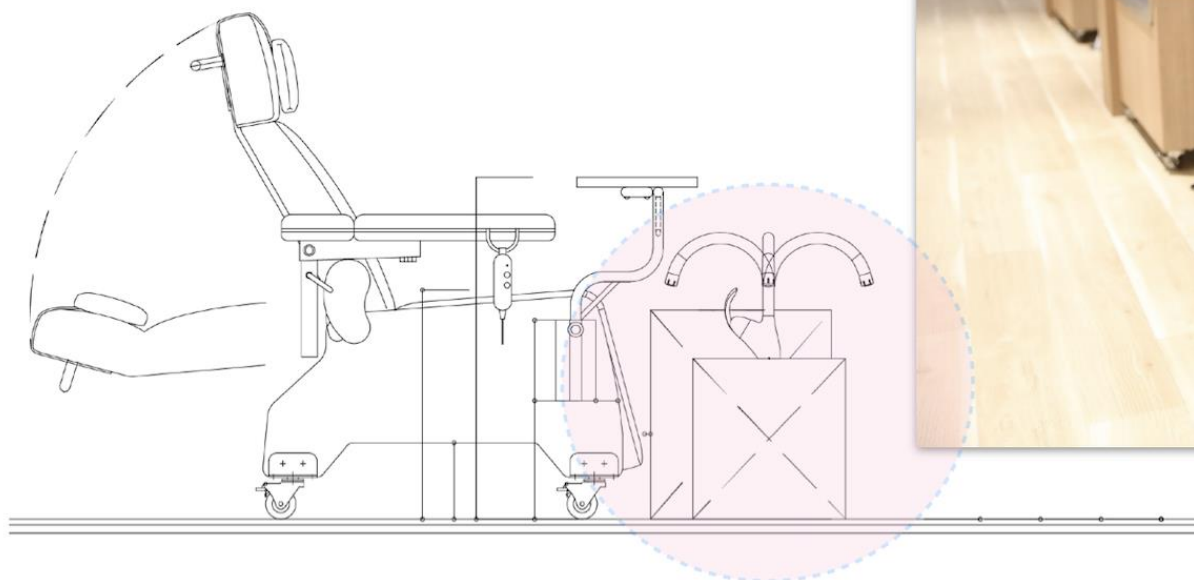
平川 恵基 下津曲 稔子 倉橋やよい 近藤昭彦 横田 甚 山端 英二

●はじめに

血液透析患者の下肢の血流障害は発症頻度が高く、生命予後に与える影響も大きいことから、透析医療の現場における足のチェックやフットケアの実践をはじめとした透析療法の工夫が求められている。

● 目的

当院は透析療法の新たな取組みとして、透析中の温流水により下肢を加温する持続下肢加温システムを新たに開発した。このシステムを透析患者に実践する前に、最適な利用方法について検討した。



方法

リクライニングチェアに座り、専用容器に温度39℃
~42℃の温水を水深約15cm溜めて足浴を実践した。

短時間加温群 (10分間) と 長時間加温群 (30分間) の2群
間で有効性と安全性を比較した。

安全性評価

血圧・脈拍・体温・有害事象の発生

有効性評価

VASスケール



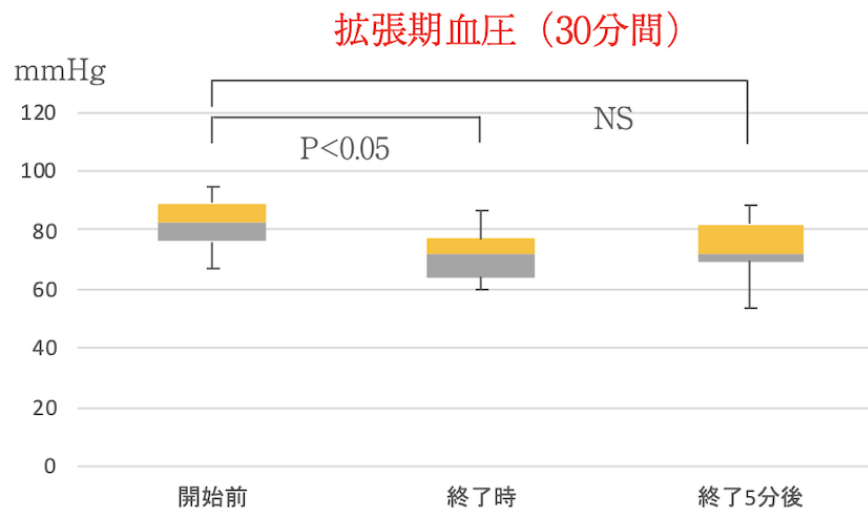
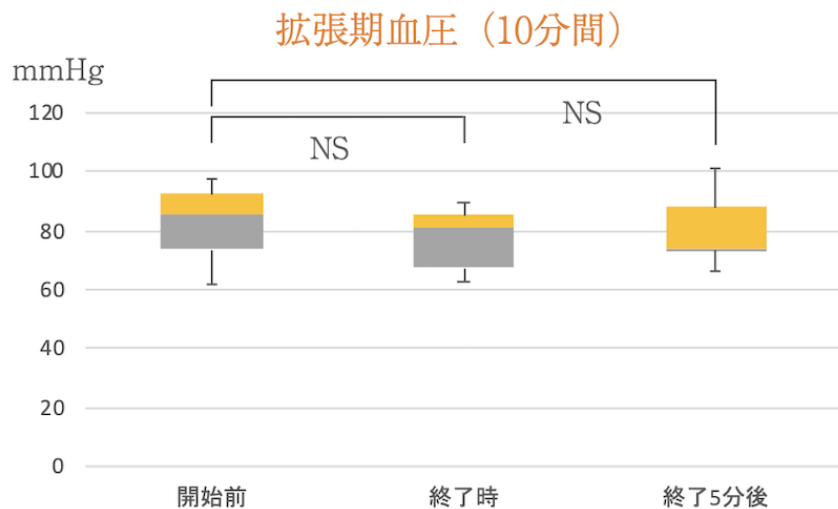
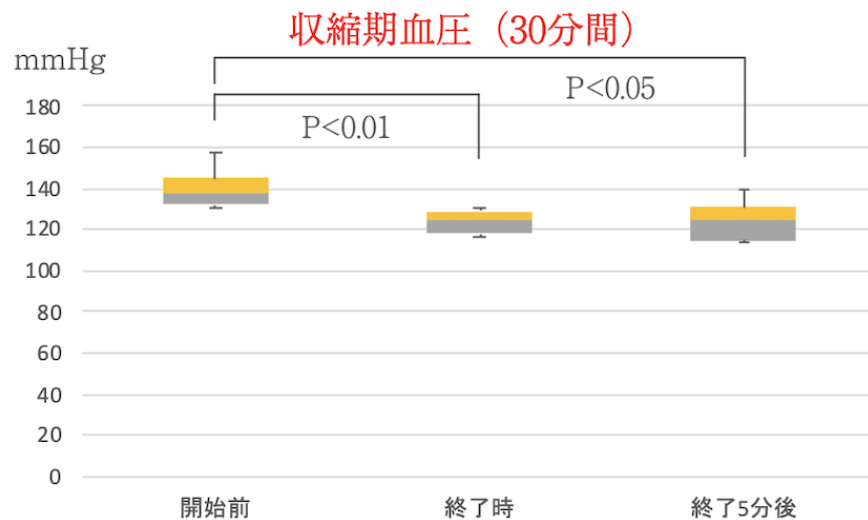
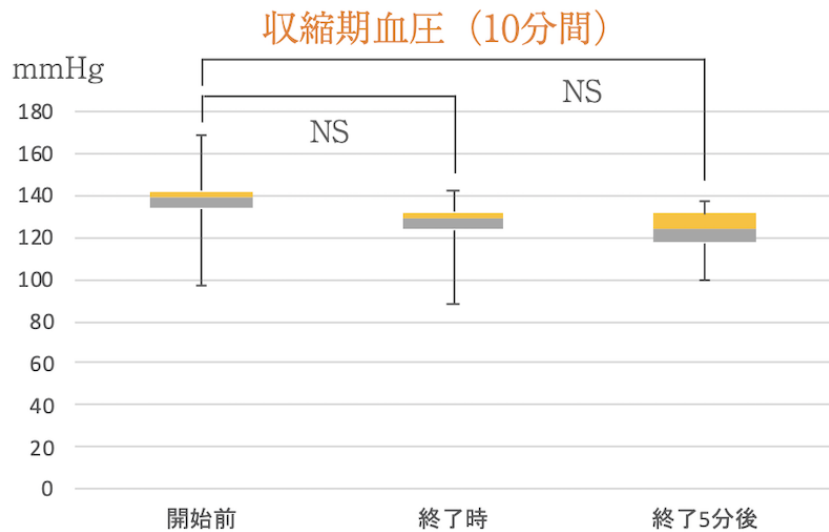
対象

基礎疾患のないヘルシーボランティア延べ20名。

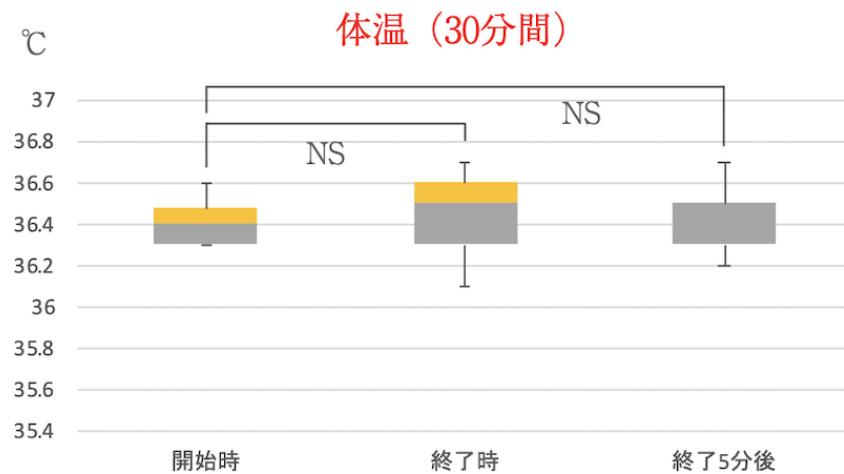
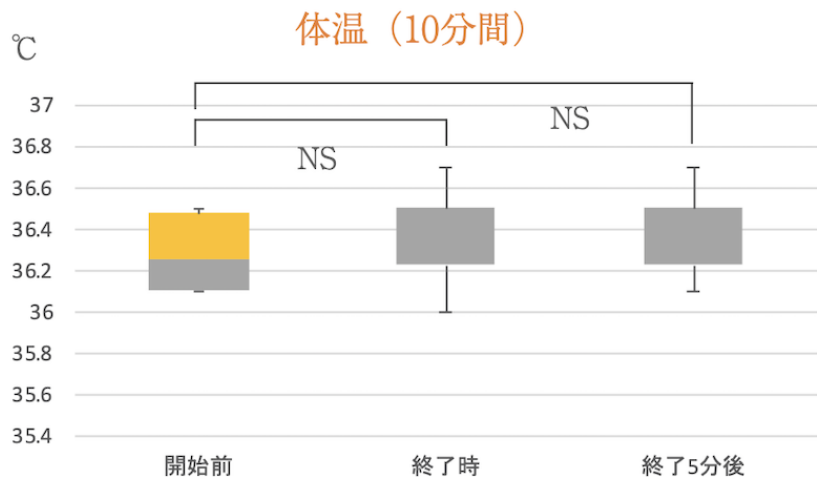
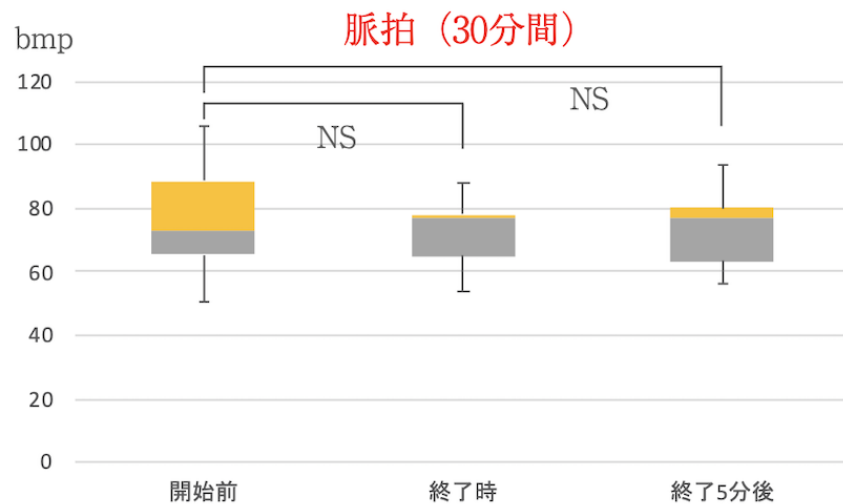
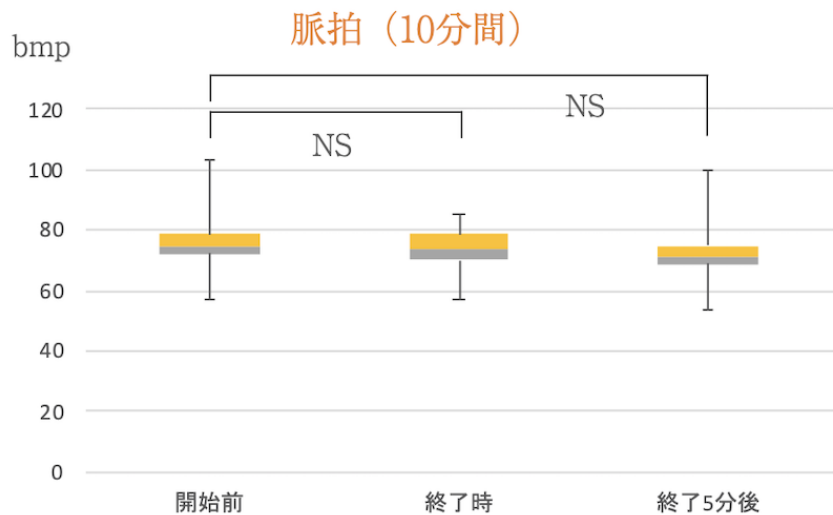
男性11名、女性9名、平均年齢 46 ± 10 歳

	短時間加温群 10分間 (n=10)	長時間加温群 30分間 (n=10)
性別 (男性♂)	5名 (50%)	6名 (60%)
平均年齢	41 ± 5 歳	50 ± 13 歳
BMI	23.7 ± 3.6 kg/m ²	22.3 ± 2.7 kg/m ²

0 收縮期/拡張期血压



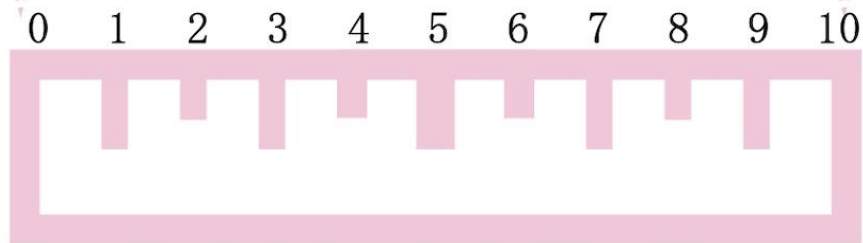
0 脈拍と体温



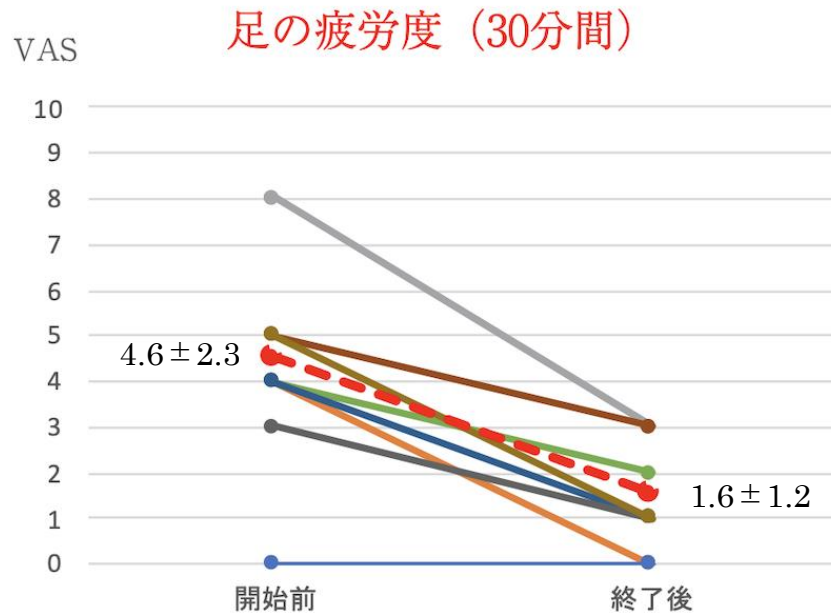
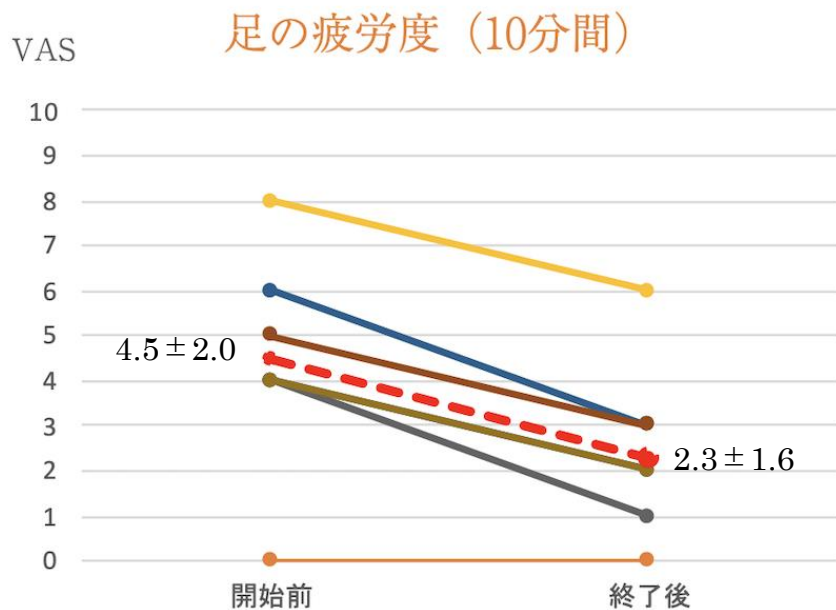
0 VASスケール (疲労感)

疲れを全く感じない最良の感覚

疲れきった最悪の感覚



VAS 10段階評価



参考) ●-----● 上図の赤点線は平均値を示します。

● 考察



収縮期血圧の長時間群（30分間）は開始前から終了後、その5分後共に有意に低下した。これらは足の血行促進による末梢血管拡張が影響していると考えられる。



脈拍、体温に影響はなかった。また、のぼせや実施後のふらつきなど有害事象はなかった。



足の疲労度は対象者全体的に改善傾向がみられた。

● まとめ

今回の温流水システムの安全性と有効性を確認できた。足浴30分では血圧の低下がみられたので、短時間である10分間での足浴が望ましいように思われた。今後の運用をさらに充実させ、臨床の実用化を目指すことで透析患者への満足度の向上と、下肢症状の緩和が期待できると考える。

大阪透析研究会

COI開示

筆頭発表者名 平川恵基

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などは
ありません。